

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎・基本の確実な定着を目指すための学習指導の工夫
- 思考力・表現力を伸ばす授業づくり

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 前野 有沙	委員 総括 榎納 哲也 低学年推進委員 近藤 奈美 総括補佐 徳永 登美 高学年推進委員 井上 嘉隆 研修主任 大場 智絵
------------------	--

校長

**榎納 哲也**

千代小学校  
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

教員の学期ごとのチェックシートや授業研究会等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に読書や音読をする姿勢が見られる。</li> <li>●習得したことを実際に生活の中で活かしていない。</li> <li>●「は・わ」「お・を」の使い分けができていない。</li> <li>●文章力や聞く力に課題がある。</li> <li>●語彙力が弱く、言葉の引き出しが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み書き、計算といった基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・しっかり話を聞く態度を身に付ける。</li> <li>・学習したことを生活に結び付けることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事ごとに書く活動を取り入れ文章力を養う。</li> <li>・時計を繰り返しよむなど日常生活に結びつけて考えさせる場面を多くとり、習得したことを生活の中で活かせるようにする。</li> <li>・タブレットでフラッシュ計算や100マス計算などの反復学習を行いスモールステップで基礎基本の定着を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生はタイムを計って計算を継続していて計算力がついてきた。2年生は九九を99%達成できた。</li> <li>・「は・わ」「お・を」の使い分けや書き順が定着していない。</li> <li>・反復練習はしているが、基礎基本の定着が十分でない。</li> <li>・個別指導することで全体の話聞いていなかったり、集中して最後まで聞けなかったりする児童もいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着を図っていく。</li> <li>・朝活の更なる活用や隙間時間の活用。</li> <li>・最後まで聞くことができるような工夫をし、話を聞く習慣をつけさせる。(端的・注意をひくように)</li> </ul>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合いを好み、自分の言いたいことを一生懸命伝えようとしている。</li> <li>●自分の思っていることを上手く言葉で表現して伝えることができない。</li> <li>●文章を読み取る力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを相手に伝えるように言うことができる。</li> <li>・人の話をよく聞き、場面に応じた適切な表現をすることができる。</li> <li>・何が正しいか判断して行動できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝会や朝の活動などで表現の場を設ける。(1分間スピーチ・表現したものをタブレットで撮って映す・質問コーナー・行事ごとに作文や日記を書く など)</li> <li>・ペア学習やグループ学習など対話的な活動を多く取り入れる。</li> <li>・学年に応じた発表のマニュアルを作り、発表をすることの抵抗感を減らす。</li> <li>・学校や学級のルールの確認。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の意味が分からない。</li> <li>・書く量は増えてきたが、内容にはまだ浅さを感じる。</li> <li>・経験不足や語彙力の無さ、自信の無さなどから、「何て言ったらいいの?」と自己表現に苦手意識を持っている児童が多い。</li> <li>・自分の感想は言いにくい、文字化すると話しやすい。</li> <li>・書くことが得意な児童も増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から見たこと、聞いたことを正しく伝える練習をさせる。</li> <li>・1分間スピーチにお題を作り、学年の一覧表をつくる。</li> <li>・グループで話し合うなどの経験を多く積ませる。</li> <li>・書く活動を取り入れてから、自己表現の場を取り入れる。</li> </ul>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○真面目でよく発表し与えられた課題に対しては落ち着いて取り組むことができる。</li> <li>●新しい課題や発展的な課題に取り組もうとする児童は少ない。分からない問題は無回答の時もある。</li> <li>●授業中正しい姿勢を保てない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた課題だけでなく、自ら進んで学習することができる。</li> <li>・正しい姿勢で授業に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと座り授業に取り組む態度を育めるように学習の構えをつくる。話を聞く習慣づくりをする。</li> <li>・授業のめあてを明示し、見通しを持たせる。</li> <li>・ICTを効果的に活用することで、意欲的に学習に取り組む態度を育てる。</li> <li>・ミニプリントを繰り返すなど、スモールステップで着実に基礎・基本を身に付けさせ、次の学習へ意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイム着席ができるようになった。</li> <li>・姿勢の維持がまだ難しい。</li> <li>・意欲的に学習しようとする児童が増えてきた。</li> <li>・授業に取り組む態度はよくなったが自ら進んで行動するには至っていない。</li> <li>・落ち着いて字を丁寧に書かせることができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を聞いて行動に移せるようにする。</li> <li>・授業の見通しを持たせる。</li> <li>・進んで行動できるように目標設定をする。</li> <li>・何度も直させ、丁寧に書く習慣をつけさせる。</li> </ul>

# 令和6年度 学力向上ロードマップ

